

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：34312

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26330390

研究課題名(和文) 小学校の学校図書館による児童への読書・情報教育に関する実践的研究

研究課題名(英文) Practical study of reading and information support for pupils in school libraries

研究代表者

岩崎 れい (IWASAKI, Rei)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・教授

研究者番号：40329975

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の課題は、小学校児童への図書館教育によって児童がどのような学習効果を得られるかを分析し、その結果をもとに学校図書館の学習支援の方法を理論的に体系化することであった。公立小学校の協力を得て、小学校における図書館利用教育、情報教育の授業、授業における図書館の利用などの実施または観察をおこなった。これらの研究は、図書館教育や情報教育をカリキュラムに取り入れていく可能性追求には役立ったが、今回図書館教育と情報教育を組み合わせる授業に取り入れていくには至らなかった。しかし、いくつかの課題が明らかになり、今後の方向性の示唆を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：The task of this research is to analyze what kind of learning effect can be obtained by library education for elementary school children, and to construct a systematized method of learning support by school libraries.

With the cooperation of some public elementary schools, we conducted or observed libraries use education at elementary school, information education lesson, and the classes which used the school libraries. These studies helped to pursue the possibility of incorporating library education and information education into the curriculum, but this time we did not combine library education and information education into classes. However, several problems were clarified, and suggestions on future direction could be obtained.

研究分野：図書館情報学

キーワード：学校図書館 図書館利用教育 情報教育

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 学校図書館による児童への学習支援に関する研究状況について

1990年代以降、米国では学校図書館による児童・生徒への学習支援に関する研究が進んでいる。従来の米国の学校図書館基準が学校図書館におけるサービスや施設のありかたが中心であったのに対して、1998年に米国で学校図書館基準の改定版として出版された Information Power: Building Partnerships for Learning(American Association of School Librarians 編集)は、学校図書館が児童・生徒の学習を支援し、児童・生徒の学習環境の整備と情報リテラシーを身につけることを手助けすることによって、児童・生徒が自立した学習者になることができるという考え方を基本として、学校図書館基準が作成されている。学校図書館が児童・生徒の学習を支援し、自立した学習者になることを手助けするという考え方は当時国際的にも画期的であり、日本でもいち早く紹介された。しかし、日本における学校図書館による学習支援の具体的な方策はまだ構築されていない。

### (2) 国内の学校図書館による児童・生徒への学習支援に関する社会的背景

2011年から実施されている学習指導要領においては、学校図書館の重要性が示唆され、言語力の育成や学習の発展のために学校図書館を活用することが求められている。しかし、具体的にどのように学校図書館教育を行い、どのように学校図書館を活用すれば、児童・生徒の学習に結びつくかという具体的な方策は十分に提示されておらず、学校のカリキュラムと深く関連した学校図書館利用を実施していくためには方法論の確立が不可欠であると考えられる。

### (3) 研究の着想に至った経緯

1999年に米国の学校図書館基準 Information Power: Building Partnerships for Learning(American Association of School Librarians 編集)の翻訳に携わり、それをきっかけとして学校図書館による児童・生徒の学習支援の研究を始め、今日に至っている。

また、生駒市では生駒市子ども読書活動実践会議のメンバーとして、京都市では葵小学校学校図書館運営協議会のメンバーとして、学校図書館の環境整備の仕事に実践的に携わる中で学校図書館をカリキュラムと深く関連させて活用する重要性を強く認識するに至った。

これらの経緯をふまえ、学校図書館による児童・生徒の学習支援の方法論について、実践的な研究をもとに理論化していくことが本研究の課題である。

## 2. 研究の目的

現在の学習指導要領では、さまざまな場面において図書館の活用が求められている。しかし、実際には、日本の学校図書館は未成熟であり、学習指導要領では、児童・生徒が学校図書館を活用して言語力をはじめとする学力を身につけることが求められており、学校図書館の現場ではある程度の実践や研究は進んでいるものの、体系的な理論化には至っていない。本研究では、(1)すでに研究成果として得られている児童への学校図書館に関する教育方法を土台に、(2)小学校現場における児童への図書館教育を実践し、(3)それによって児童がどのような学習効果を得られるかを分析し、(4)その結果をもとに学校図書館の学習支援の方法を理論的に体系化しようと考えていた。

## 3. 研究の方法

小学校の協力を得て、学校図書館の利用教育および学習支援のための教材作成と実践をふまえ、方法論の確立を行って行く予定とした。(1)教材作成にあたっては、米国の学校図書館基準をもとに理論的な研究成果を活用し、(2)教材を実践で利用したあとは、その効果を分析し、改訂版を作成する。(3)理論面・実践面での研究成果をもとに、最後に方法論の理論的な体系化を行う。また、(1)基本的な図書館利用教育、(2)読書指導・支援、(3)情報教育・情報リテラシー教育の3点について、重点的に研究を行うことによって、学校教育における学校図書館活用の土台をつくりたいと考えた。

## 4. 研究成果

本研究の課題は、小学校児童への図書館教育によって児童がどのような学習効果を得られるのかを分析し、その結果をもとに学校図書館の学習支援の方法を理論的に体系化することであった。

平成26年度には、公立小学校1校の協力を得て、小学校図書館における図書館利用教育を全学年対象に試験的に実施したが、効果を分析するには十分なデータを得ることができなかった。また、参考のため諸外国の学校図書館の動向に関する情報を収集した。

この図書館利用教育では、児童が授業において調べ学習をするにあたり、図書館資料を十分に使いこなすことができていないのではないかと、という仮定のもとに、図書館の基本的な利用(NDC分類に従って、本が書架に配架されていることなどを知り、必要な本が探せるようになること)や参考図書の利用方法(図鑑や百科事典を利用するにあたり、索引など利用しながら、一定の情報探索プロセスに従って必要な情報にたどりつくことなど)の指導を実施した。その結果、図書館利用教育を受けたことがない小学生は、配架の法則や図鑑や百科事典の効果的な利用方法を知らなかったが、1時間というごく短い授

業時間でそれを習得できることがわかった。

平成 27 年度には、学校図書館に関する国際ガイドラインの分析と図書館を使った小学校における授業の分析を実施した。国際ガイドラインの分析によって、理想的な学校図書館のあり方を考える上で、日本の学校図書館の先進性と課題を明らかにした。日本の学校図書館は法的な根拠によってすべての学校に配置されていることやそのコレクションの多様性においては、比較的先進的であるが、その活用においては次の3つの課題が見られた。1点目は、学校図書館が教育との密接な関係を持つことである。学校教育が「教授中心から学習中心へ」と変化していることに連動して、「資料中心から学習者中心へ」と学校図書館が発展していくためには、資料の多様化によって利用者の学習および個人的ニーズを支えること、情報技術の活用によって図書館内・開館時間内にとどまらないサービスを実現すること、「ラーニング・コモンズ」などの新しい概念のスペースを提供していくことなどが必要だとされているが、地域差や公立私立間の差の大きい日本においては実現の難しい課題である。2点目は、学校内外の理解を得ることと財源の確保であり、そのためには広報活動のみならず、学校図書館活動の評価が不可欠であるが日本でも体系的な評価ができるまでには至っていない。3点目は、人的資源の考え方であり、日本においてはすでに法制化されている司書教諭と学校司書の業務分担の内容や、学校図書館ボランティアがどのような形で学校図書館サービスに関わるのかといった課題を現在も抱えている。

また、小学校において図書館を利用した授業の分析を通して、授業に学校図書館が関与する効果がどこにあるかを分析した。授業に学校図書館を利用する取り組みは、現行の学習指導要領のもとで公立小学校においても次第に見られるようになってきている。今回観察した授業から明らかになったことは、学校図書館をより効果的に活用している授業が学習指導要領の範囲内で行えるのかどうか、という課題である。学習指導要領には学校図書館の利用を求める文言があり、また教科書にも学校図書館に関する単元があるが、どのように学校図書館を利用すればよいのか、という具体的な方法論が確立していないため、学校ごとに方法論を模索している状態であることが明らかになった。

平成 28 年度には、小学校における図書館を使った授業や情報教育の授業の分析と、国際ガイドラインに照らし合わせた際の日本の学校図書館がカリキュラム全体に果たす役割の分析を実施した。小学校における授業の分析は、学校図書館を利用した授業、通常の授業の中で体験学習とその資料となる図書を利用した授業、情報モラル教育の授業などを対象とした。これらの研究は、図書館教育や情報教育をカリキュラムに取り入れて

いく可能性追求には役立ったが、今回図書館教育と情報教育を組み合わせる授業に取り入れるまでには至らなかった。特に情報教育に関しては、学校におけるタブレット型情報端末の活用が進んでおらず、その効果的な端末の活用のために各教科等における学習デザインを開発することには課題が残された。

今回、学校図書館による図書館利用教育と情報教育を融合した有用な方法論を体系化するにはいたらなかったが、いくつかの課題が明らかになり、今後の方向性の示唆を得ることができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

神月紀輔・算数科指導法における自律的な学びによる算数科に対する目的意識の変化．こども教育研究．第2号．2017，pp.63-68．(査読無し)

神月紀輔．大学における教職科目の実践 - 「教育の方法と技術」の取り組みから - ．龍谷教職ジャーナル 第4号．2017，pp.32-42．(査読無し)

Iwasaki Rei．Les bibliothèques scolaires, une politique de développement récente au Japon. Médiadoc (Paris : A.P.D.E.N.). No.16. 2016, pp. 35-39. (査読無し)

岩崎れい．学校図書館の読書支援における課題．『明治大学図書館情報学研究会紀要』No.7．2016，pp.13-18．(査読無し)

岩崎れい．「IFLA/ユネスコ学校図書館ガイドライン」改訂版の内容とその論点．『現代の図書館』Vol.53, No.2．2015，pp.90-95．(査読無し)

岩崎れい．学校図書館における連携の方向性．『学校図書館』No.765．2014，pp.14-17．(査読無し)

[学会発表](計12件)

岩崎れい．(招待講演) 図書館が広げる子どもの世界．京都市立左京図書館・図書館友の会けやき共催．2017年1月28日．京都市立左京図書館(京都府京都市)．

原清治・神月紀輔・堀出雅人・浅田瞳．義務教育段階のネットいじめの特徴と生徒指導上の課題 A市における悉皆調査の結果を中心に 関西教育学会 2016年12月3日．立命館大学衣笠キャンパス(京都府京都市)．

足立幸子・今井福司・岩崎れい・中村百合子・野口武悟・平久江祐司．(招待講演)シ

ンポジウム「学校図書館への研究的アプローチ」.日本図書館情報学会 第64回研究大会. 2016年11月13日.天理大学(奈良県天理市).

岩崎れい.(招待講演)基調報告 IFLA ガイドラインとこれからの人の養成.第102回全国図書館大会 第4分科会 図書館情報学教育.2016年10月16日.青山学院大学(東京都渋谷区).

神月紀輔・堀出雅人.小学生を対象とした大学生による情報モラル教育の実践.日本教育工学会.2016年9月19日.大阪大学豊中キャンパス(大阪府豊中市).

岩崎れい.(招待講演)学校・公立図書館を活用した授業の実際~効果と課題を考える~.平成28年度 草津市立笠縫小学校校内研究会.2016年7月22日.草津市立笠縫小学校(滋賀県草津市).

岩崎れい.(招待講演)学校における読書の支援の意義と方策.佐世保市教育委員会.2016年7月15日.佐世保教育センター(長崎県佐世保市).

岩崎れい.(招待講演)こどもの読書のために ~図書館にできること~.大阪公共図書館協会.2016年5月20日.大阪府立中央図書館(大阪府東大阪市).

岩崎れい.(招待講演)小学校における図書館活用 ~新しい学びの支援~.平成27年度 京都市立葵小学校研究発表会.2016年2月5日.京都市立葵小学校(京都府京都市).

岩崎れい.(招待講演)「学校図書館における読書活動への取り組み」学校教育における読書活動 ~その役割と意義~.明治大学図書館情報学研究会 2015年度 シンポジウム. 2015年10月24日.明治大学和泉図書館(東京都杉並区).

岩崎れい.(招待講演)子どもたちの主体的な学習に役立つ学校図書館の利用.平成27年度奈良県学校図書館研究大会.2015年8月4日.奈良県立図書情報館(奈良県奈良市).

岩崎れい.(招待講演)子どもたちを読書の世界へ~家庭・学校・地域でできること~.愛媛県立図書館主催「子どもの読書活動推進のための研修会」.2014年10月3日.今治市立中央図書館(愛媛県今治市).

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6.研究組織  
(1)研究代表者  
岩崎 れい (IWASAKI, Rei)  
京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・教授  
研究者番号:40329975

(2)研究分担者  
神月 紀輔 (KOZUKI, Norisuke)  
京都ノートルダム女子大学・心理学部・教授  
研究者番号:20447874

(3)連携研究者 ( )

研究者番号:

(4)研究協力者 ( )